

Official Selection, Competition
CANNES 1998

愛は売らない。愛は買わない。
19世紀末。上海の遊廓。男も女も愛は真実を求めた。

フラワーズ・オブ・シャンハイ

第51回カンヌ国際映画祭正式出品作品



海上花

Flowers of Shanghai

トニー・レオン 羽田美智子 ミッシェル・リリー カリーナ・ラウ ガオ・ジエ / ウエイ・シヤオホエイ / レベッカ・パン / ファン・シユエン

製作 松竹映画 監製 松竹映画 脚本 松竹映画 監督 松竹映画

第51回カンヌ国際映画祭正式出品作品

フラワーズ・オブ・シャンハイ

王(ワン):トニー・レオン / 小紅(シャオホン):羽田美智子
翠鳳(ツイフォン):ミッシェル・リー / 双珠(シュアンチュウ):カリナ・ラウ
羅(ルオ):ガオ・ジェ / 愚貞(ホイチェン):ウェイ・ジャオエイ
黄(ホアン):レベッカ・パン / 双玉(シュアンユウ):ファン・シュエン
金花(チンホア):伊能静

海上花 Flowers of Shanghai

1998年 / 台湾・日本映画 / 2時間1分 / カラー、ドルビーSR
監督:ホウ・シャオシェン「悲情城市」「愛戀な楽園」
原作:シン・チューン、チャン・アリン「傾城の恋」「赤い薔薇、白い薔薇」
サウンドトラック:フレイヴァー・オブ・サウンド
製作:長孝賢映画製作社、松竹 / 提供:フーチャー・フィルム・エンタープライズIII
配給:松竹富士



19世紀末、上海。
唯一“自由恋愛”が存在した場所——遊廓。
遊女たちは、夜の闇に輝く“上海の華”であった。
気が強く、独立することを願っている翠鳳(ツイフォン)。
寛容な性格の双珠(シュアンチュウ)。
しとやかだが、内に秘める気性は誰よりも激しい小紅(シャオホン)。
そんな遊女たちの間を彷徨うひとりの男、エリート官僚、王(ワン)。
求めるものは、真実の愛——。

トニー・レオン、ミッシェル・リー…… アジアの演技派俳優が結集

遊女たちの間で揺れ動くエリート官僚、王(ワン)を演じるのは、『恋する惑星』『ブエノスアイレス』で世界中の女性を虜にした香港スター、トニー・レオン。極めて抑制の効いた演技で遊廓の中でしか愛を得られない男を完璧に演じきった。

男を翻弄する、“上海の華”である遊女たちを演じるのは、『RAMPO』の羽田美智子、『天使の涙』や資生堂のCMでもお馴染みのミッシェル・リー、『欲望の翼』のカリナ・ラウ。彼女たちの演技は「極めて精巧な灯火のように輝いている」(ヘルルド・トリビューン紙)と評され、カンヌに集まったプレス達を大いに魅了した。また、侯孝賢監督作の常連ガオ・ジェや伊能静も出演。映画のラストには、台湾の人気歌手トニー・チャンが登場するなど、まさしくアジアの豪華スターの夢の共演が、ここに実現した。



彼女は言っていた。
たった一人の男に
出逢えばいいと。

想像もできないような
極限へと導く
“映画の絨毯”!!

〈山ル・モンド紙〉

全編が壮麗な金銀細工。

〈仏リベラシオン紙〉

名人芸と官能性とで
見る者を幻惑する傑作!

〈仏レザンロックフィバル紙〉

19世紀末 独特の文化が花開いた中国

清朝末期、結婚は本人の意思に関係なく家の事情で定められていた。そのため、男たちは真の意味での“恋愛”を求め、遊廓を彷徨っていた。しかし、遊女の愛情は必ずしもお金で買えるものではなく、男たちは愛を得るために、何度も遊廓へ足を運んでいたのである。



細部にまでこだわった壮麗な世界

映画化にあたり、侯孝賢は遊廓の内部を執念とも思える厳密さで再現した。華麗な衣装は全て俳優の体型に合わせて特注で作らせ、家具や装飾品は実際に清朝時代の骨董品を買集めた。また、宴席のシーンの料理は、全て元コックであるガオ・ジェが作ったというから驚かされる。宴席で飲んでいる酒も全て本物で、酒好きのトニー・レオンにはたまらない撮影だったらいい。また、背景に通奏低音のように流れる官能的で哀切な音楽は、現在国際的に注目される半野喜弘が、この映画のために書き下ろしたものである。

10月ロードショー 台湾直輸入オリジナルポストカード付(劇場窓口のみ・限定数)
〈前売券好評発売中〉 一般 ¥1,600
(MOVIX六甲は除く) (当日¥1,800の処)

駅前第3ビル・南向い・東映会館5F

梅田東映パラス2

(345) 7296

道頓堀かに道楽東100m KADOZAビル5F

松竹角座

(211) 1131

六甲ライナー・センター駅/ファッションプラザ9F

MOVIX六甲

078 (846) 2800